

令和3年3月1日

保護者のみなさまへ

泉佐野市立第二小学校  
校長 勝間 弘記

### 学校教育アンケート（学校教育診断）のお礼と結果の集約について

早春の候、保護者のみなさまには、平素より本校の教育活動推進に何かとご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今年度も2年生と5年生の保護者対象に「学校教育アンケート」を実施しましたところ、205人のみなさまからご回答をいただきました。これは回収率95%にあたります。多くの方々にご協力をいただきましたことに対し、改めて心よりお礼申し上げます。アンケートにつきましては、児童の回答分も含めて精読いたしました（児童分の主な分析につきましては、右項に掲載させていただきました。）

本年度は、新型コロナ感染拡大防止に関わりいろいろな場面で学校生活・学校行事にも制約がありましたが、たくさんの児童たちが学校へ行くのが楽しく、学習や少ない学校行事や学年・学級の取り組みに積極的に参加している様子がかがえしました。大変ありがたく思っています。しかし、多数の肯定的な回答とは別に、否定的な回答もありました。今後も全ての児童、全保護者のみなさまが学習や行事に積極的に参加したい！と思えるような魅力ある学校づくりをめざしていきます。

本校では自分の意見を持ち、話し合ったり、発表したりする機会を多く取り入れた授業づくりを推進しています。このことと関連した問いの「授業や学級会で発表したりする機会」が多いと感じている児童が80%ほどでした。今後も、児童が発表したくなる・友だちと話し合うことを楽しむ授業づくりに取り組み、来年度は80%後半の評価をいただけることを目指したいと思います。

保護者様におかれましては、「命を大切に作る心や社会のルールを守る態度を育てている」「すべての教育活動において子どもに人権尊重の意識を育てようとしている」ことなどに高い評価をいただいています。また、「ご家庭とのていねいな連絡や相談をお受けすること」「台風などの場合の対応について、子どもや保護者に知らされている」「子どもの登下校時における安全確保」など、学校・家庭・地域との連携に努めていることに対しても、一定の評価をいただきました。

反面、「進んで読書をする」とりくみは、学校の教育活動が子どもの家庭生活にまで及んでいない状況があります。読書は全ての学習に効果があり、その土台としてとても有効な学習といえます。今後も、子どもたちが読書する楽しさを味わえるような指導を続け、家庭でも読書したくなる指導に取り組んでいきたいと思っています。

たくさんの貴重なご意見をありがとうございました。今後の本校の教育活動に活かし、お子様の将来を見据えて、学校は保護者・地域の皆様のご協力をいただきながら、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

## 学校教育アンケート学年別集約（令和2年度）

### 2年生

- ① 「授業がわからないときは、先生に聞きやすい」という児童が76%であった。2年生はこれからの学習に必要な基礎学力を養う非常に重要な時期である。授業がわからないときに、すぐに質問できるように、しっかりと声掛けするとともに、質問する時間や場を設定していくことで、児童が「わかる」と感じられるように、授業改善、工夫にとりくんでいきたい。
- ② 「授業や学級会で、自分の意見を発表する機会がある」と感じている児童は79%に留まった。発表する場はあっても、発表しづらい、発表したくないといった理由で発表していない児童が多いことが考えられる。安心して自分の意見が言える学級の雰囲気づくりに努め、児童が主体的に授業に参加できるように、発問の工夫やグループ学習等の機会をさらに増やしていきたい。
- ② 「読書は楽しい」と感じている児童は90%で、その中でも「よく当てはまる」と回答した児童も74%と高い割合になった。図書時間をしっかり確保し読み聞かせを行ったこと、学年の本棚を設けたり、国語の学習で並行読書にとりくんだりしたことが要因として考えられる。また、今年から配布された「読書通帳」への関心の高さもうかがえる。今後も児童が様々な本と出会い、豊かな読書体験ができるようにとりくみを進めていきたい。

### 5年生

- ① 「授業がわかりやすい」「授業がわからないときは、先生に聞きやすい」と感じている児童がおよそ90%を占めている。本年度、算数の少人数指導を長期的に行った結果だと考えられる。今後も児童の困り感に気づき、児童が質問しやすい雰囲気づくりや信頼関係を作りつつ、高学年での少人数指導を継続していきたい。
- ② 「授業や学級会で、自分の意見を発表する機会がある」と感じている児童が90%を下回った。発表する場があっても、発表することにためらう児童が多いことが考えられる。どんな学習場面でも、安心して自分の意見を言える学級づくりに努め、児童が主体的に授業に参加できるような授業作りを行っていきたい。
- ③ 「自分を大切にし、他人への思いやりを学ぶことがある。」「命の大切さや社会のルールについて学ぶことがある。」と感じている児童がおよそ95%を占めている。人権教育や道徳、社会科などにおいて、世界のことや自分自身のことについて、学習を積み重ねてきた結果であると考えられる。視野を広く持ち、自尊感情を高く持つためにも、今後も継続して指導していきたい。
- ④ 「児童朝礼の先生の話や委員会の発表はためになる。」と感じている児童は75%ほどだった。今年度は、児童朝礼が放送朝礼に変わったこともあり、視覚的に情報を伝える方法を考えていきたい。また、高学年として自分たちの所属している委員会の発表の仕方について考える機会を作りたい。